

坂井農場長アドバイス

令和5年度おいしい福井県米を作るために！－第2回－

JA 福井県坂井営農経済センターには、120 年超の歴史を持つ「坂井農場」があります。由川坂井農場長が水稻の生育について報告し、今後の重点管理について述べます。

1. 稲作期間の気象状況(6 月～7 月)
2. 坂井農場の生育状況について(ハナエチゼン、コシヒカリ、あきさかり)
3. 今後の対策はコレ！
 - ★中干し終了後の水管理、間断通水を！(水管理、カメムシ対策、土づくり)
 - ★適期刈取(早刈り・遅刈り弊害)
 - ★斑点米カメムシ類への防除対策を徹底！
 - ★ニカメイチュウの発生量が、地域により多くなっています！
 - ★いもち病・紋枯病等にも気を付けて
 - ★米は地力でとれ！



坂井農場 圃場全景(7 月 20 日)

1. 稲作期間の気象概況

○6 月……高気圧に覆われ晴れた日もありましたが、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなり、大雨となった日もありました。11 日から梅雨入りとなり、平均気温(22.7 度)は平年(22.0 度)より高く、降水量も 285mm(187%)とかなり多くなりました。日照時間は、平年並み(100%)となりました。

○7 月……上旬は晴れた日もありましたが、梅雨前線の影響により曇りや雨の日が多くなり、特に 8 日は大雨となりました。平均気温(25.9 度)・日照時間(48.1h)は平年並みとなり、降水量(101.0mm)は多くなりました。



葉緑素計 SPAD による葉色の測定

2. 坂井農場の生育状況について

○ハナエチゼン

5 月 1 日植えのハナエチゼンの幼穂形成期は 6 月 25 日でした。平年に比べ 2 日程度早く、出穂期は 7 月 13 日(昨年 11 日)で平年(7 月 17 日)に比べ早まっています。また、農業試験場をはじめ県下の他の地点においても、出穂期は平年より 2～3 日早まる見込みです。

○コシヒカリ

適期田植のコシヒカリは、草丈は平年よりやや高く、茎数は平年に比べやや多め目となっています。幼穂形成期は、7 月 13 日で平年に比べ 3 日遅れています。一方、直播のコシヒカリでは平年に比べ草丈短く、茎数が少なくなっています。幼穂形成期は、7 月 18 日で平年より 3 日遅れています。

○あきさかり

あきさかりの草丈は、平年に比べやや長く、茎数もやや多くなっています。幼穂形成期は 7 月 17 日で平年より 3 日遅れています。

■坂井農場（田植・播種日）

ハナエチゼン(5/1) コシヒカリ(5/15)、直播コシ(5/8)、あきさかり(5/15)

草丈cm 茎数(移植本/株 直播本/m)

7 月 12 日現在

区分	草丈	平年	茎数	平年	葉齢	平年	葉色	平年
コシ	78.9	72.4	25.7	22.1	11.3	11.2	4.1	3.8
直播コシ	69.4	74.9	25.0	29.0	11.3	11.0	4.2	3.9
あき	67.8	60.8	29.8	23.9	11.7	10.4	4.2	4.1

3. 今後の対策はコレ！

最近の格落ち理由についてみると、斑点米や胴割れ粒が多く発生しています。胴割れ粒は、外観形状や炊飯後の食味を損なうため未然に防ぐことが重要です。このたび農試で品種ごとの胴割れ粒の発生しやすい条件とその対策を整理したので紹介します。

ハナエチゼン・・・出穂後 20 日間の平均気温が 29℃を超えると胴割れ粒が多くなります。特に水管理に留意し適期刈取に努めることが重要です。

コシヒカリ・・・登熟歩合は粳数が多いと低下し、登熟歩合が低下すると胴割れ粒が発生しやすくなります。このための適正な粳数確保や水管理が重要です。

★中干し終了後の水管理、間断通水を！

坂井農場の主要品種の幼穂形成期は

- ・ハナエチゼン(6月25日)
- ・コシヒカリで(7月13日)
- ・あきさかりで(7月17日)

今年は平年よりやや遅れて幼穂形成期を迎えました。今後、間断通水を徹底する方とそうでない方では、コメの品質・食味値に差が出ると言われていいますので、幼穂形成期以降は間断通水を徹底しましょう。

ポイント①

幼穂形成期以降は、新しい根が発生しません。このため根をいかに大事にするかがポイントで、間断通水を励行し根に水分と酸素を供給します。

ポイント②

土壌水分が不足すると、生育後期の窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがあり、登熟低下につながります。

○間断通水のやり方(湛水と落水を数日毎に繰り返す)

① 入水 → ② 自然落水 → ③ 入水

※フェーン現象や台風などの強風が予想される場合、直前に深水管理とします。

※雨が多い場合は、入水を控え、落水に努めることが大切です。

○落水期の目安(品種別)

品 種	落 水 期
ハナエチゼン、コシヒカリ、いちほまれ、カグラモチ	刈取 5～3 日前
あきさかり、日本晴、タンチョウモチ	刈取 10～7 日前



スズメの被害を受けた稲



スズメ対策として今年はカラスの模型を吊り下げました。



キラキラテープの張り方にもうひと工夫してトライです。

★適期刈取をしよう(早刈り・遅刈り弊害に気を付けて)

早刈りの弊害

- ① 青米などの未熟粒が多く、玄米も小さく、収量・品質が低下。
- ② 籾水分が高く、乾燥むらになりやすい。

遅刈りの弊害

立毛中に胴割米や着色粒が増え、光沢が悪くなる。特に高温期の早生品種。

★乾燥調製で気を付けること！

特に早生品種は高温時の刈取となるので、送風温度に注意。

- ① 倒伏稲、干ばつ稲は二段乾燥をする。(18%で4時間以上休む)
- ② 仕上げ水分 15.0～15.5%まで。

★斑点米カメムシ類への防除対策を徹底！

- ① 穂揃期と糊熟初期の2回防除を徹底する。
- ② 山沿いの水田ではクモヘリカメムシの発生が多く、8月下旬まで発生が続くので、発生が多い場合は追加防除を行う。

主な斑点米カメムシの特徴

区分	アカスジカスミカメ	クモヘリカメムシ
体長	4～5ミリ程度	15～17ミリ
越冬場所	畦畔など水田周辺地の雑草	山林のスギなどの葉
越冬の形態	卵	成虫
年間の発生	5月中旬から30日サイクルで3世代	6月下旬と8月上旬の2世代
成虫の寿命	7～10日	30日
その他	高温年は4世代発生し中晩生品種にも対策が必要	他のカメムシより発生時期が遅く、8月9月に増加

★ニカメイチュウの発生量が、 地域により多くなっています！

- ・管内の各地で被害が散見されています。
- ・特に箱施薬剤が入っていない圃場では、
パダン粒剤4・・・3～4kg/10a（7月20日までに）

フェロモントラップでニカメイチュウを確認



★いもち病・紋枯病等にも気を付けて

7月上旬～中旬は雨が多く、葉いもち病が発生しやすい状況でした。今後は、暑い夏が予想されています。
前年、紋枯病が発生した水田では、菌核が残っており本年の伝染源となります。冷夏の時は、いもち病、暑い夏は紋枯病に特に注意です。

いもち……葉いもちが発生している圃場では、葉いもち病斑から穂への感染を防ぐため、出穂直前の防除は必ず行ってください。

紋枯病……穂ばらみ期の発生株率が、早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要です。

★米は地力でとれ！

転作ローテーションもあり、地力の低下が年々著しくなっています。近年異常気象が発生し、コメの品質・食味低下につながっています。早めに「土づくり」に取り組み、品質向上に努めましょう。

- ① 土壌改良資材・有機物の施用・・・圃場の乾田化による地力の低下対策を行う。
- ② 10月中旬までに秋起こし・・・稲わらの腐熟の促進を図る。
- ③ 深耕・・・作土深15cm以上を確保（根を深く張らせることで、高温に強くする。）

次回は収穫後、本年度の結果をもとに振り返ります。